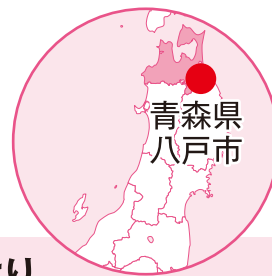




セントラル

青森県
八戸市

八戸赤十字病院

贈呈
理由

補助金を活用した高効率空冷ヒートポンプチラー導入により、
大幅な省エネルギー・省CO₂を実現



八戸赤十字病院

地域の皆さまに密着した 信頼される医療を提供

八戸赤十字病院は、1943年8月1日に日本で第50番目の赤十字病院として開設された。以降、度重なる洪水や地震により建物自体に甚大な損壊を被り、幾度となく迎えた病院存続の危機を乗り越え、地域医療、救急・災害医療活動を粘り強く継続し、地域の皆さまから高い評価と支持を受けている。

現在は2度の移転を経て、免震機能を有する本館と耐震機能を有する別館の2棟で、病床数434床の総合病院として、急性期医療、高度先進医療を中心に運営している。

寒冷地に適した ヒートポンプシステムを導入

老朽化した空調設備更新工事におけるコンセプトは、「病院運営を継続しながら省エネルギー・省CO₂に優れた寒冷地仕様の機器を導入する」ことだった。さまざまな機器を検討した結果、

東北電力からの推薦もあり、環境省の「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞するなど、省エネルギー性能に優れた空冷ヒートポンプチラーを採用することにした。

また、経済性も考慮した結果、環境省の「平成31年度先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業(ASSET事業)」に採択され、大幅なイニシャルコストの低減を図ることができた。

今後もエネルギー使用状況を確認・分析しながら、経済性・環境性に配慮したエネルギーの効率的な運用に取り組むとともに、赤十字病院の理念や



空冷ヒートポンプチラー

赤十字思想の実践を通じ、先人の志を受け継ぎ、地域災害拠点病院、八戸市救急医療施設群輪番制病院(救急告示病院)、地域医療支援病院としての使命を果たせるよう、医療の安全と質の向上に努め、地域の皆さまから安心と信頼が得られる病院づくりを目指していく。

一次エネルギー消費量削減効果

従来システム	吸収式冷温水発生機 一次エネルギー消費量:23,663GJ
採用システム	空冷ヒートポンプチラー 一次エネルギー消費量: 10,869GJ

従来システム
採用システム
-54%

同一空調負荷条件による年間シミュレーション比較
一次エネルギー換算値
※電気(全日)9.76MJ/kWh ※A重油39.1MJ/ℓ
※「エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則」

八戸赤十字病院

所在地:青森県八戸市大字田面木字中明戸2
設備施工:機朝日工業社
延床面積:33,430.87㎡
竣工:2020年更新

■設備概要

空冷ヒートポンプチラー180kW×14台
(東芝キャリア)